

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 064	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 相模湾の貧栄養の調査分析について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ○ 近年相模湾では、海中の栄養塩濃度の低下による貧栄養が問題になっており、カジメ養殖等には栄養塩の供給が必要不可欠になっている。 また、魚類、特に放流漁（ヒラメ等の稚魚）への影響についても懸念される。 そこで河川等から供給される栄養塩についての濃度、流入量等の調査、分析を要望する。 また、黒潮の大蛇行による原因も考えられることから、これらの影響要因の調査についても要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部、相模湾試験場
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 相模湾の漁場環境再生試験			
対応の内容等 河口周辺の栄養塩の動態については、小田原の山王川河口沖で令和2～5年度に水質調査を実施しており、栄養塩の値は周年深い水深ほど値が高く、また、浅い水深では冬季の方が夏季より高いといった変動を示すことが明らかになっています。 近年の相模湾における海中の栄養塩濃度は低下傾向であり、その増減には黒潮系外洋水や陸水、水温上昇など様々な外部要因が考えられ、近年の濃度変化の要因を特定することは難しいと思われませんが、当センターとしては、引き続き相模湾の沿岸から沖合にかけて行う毎月の定線観測による栄養塩のモニタリング調査を継続し、相模湾における栄養塩濃度の変化を把握してまいります。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			